

英語科部会

研究主題 4 技能を総合的に活用し、
積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成

1 主題について

新学習指導要領では、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などのコミュニケーション能力を総合的に育成することを目標としている。英語科では昨年度もこの主題で研究を進めてきた。さらに新学習指導要領の目指す生徒の姿や指導上留意すべき点などについて共通理解を図り研究を深めるために今年度も本主題を設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月26日	第2回総合研究会 授業研究会(下川沿中学校) 主題について各校の実践紹介

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成24年10月26日(金)
- ・会 場 下川沿中学校
- ・題材名 1年 Unit 8 ナンシーに会いに
- ・授業者 豊嶋 浩子 本多 牧子

① 授業者から

- ・川口小から本校に赴任し、本クラスの生徒とは昨年度から一緒に学習している。生徒同士仲がよく、インタビューなど他とかかわる活動を好む生徒たちである。本授業でもどう取り入れるか工夫した。
- ・4月に小から中への橋渡しの意味で外国語活動用教材などを使ったが、その際に **where** や前置詞には触れていた。疑問文にしたり答えたりする活動は大変そうだった。(豊嶋)
- ・豊嶋先生は小学校での経験があり、外国語活動で生徒たちがどのように学んできたか熟知している。普段から外国語活動の資料を授業に生かしており生徒たちも小学校からそのままのよい雰囲気で学んでいる。
- ・ペア活動の前に生徒が2つのグループに分かれ、自分の話す文の言い方や答え方をそれぞれの先生のもとで練習する場面があった。練習をしたことを話すという活動が生徒にとってトライになるのかと迷ったが、苦手な生徒たちにとっては練習なしでは難しいと思い、今回のような手立てをとった。(本多)

② 協議

- ・外国語活動の教材活用が素晴らしい。導入の段階で見覚えのある **where** のページがスクリーンに映し出されたのを見て、生徒たちが「懐かしい」と声をもらしていた。
- ・生徒の表情が明るく、雰囲気がよい。先生のかみ細やかな指導が行き届いており、学習訓練がしっかりなされている。
- ・授業の始まりのあいさつから T1, T2 の「あれ? ~がない。どこかしら」「それは~にありますよ」というやりとりが始まり、それが導入にうまくつながっていた。
- ・ペアで単語を並べ替えて文章を作る活動は全員意欲的に取り組んでいたが、完成しても答えることのできるのは1ペアだけだった。また、正しい答えがきちんと示されなかったため、できないまま終わってしまったペアもあった。

- ・基本本文を繰り返し丁寧に口頭練習すれば、2人の先生のところに分かれて練習しなくても活動に進めたのではないか。その分の時間で発展的な自己表現活動ができたかもしれない。
- ・本時のねらいが「表現」であったが、「答えを練習して正しく話す」ことは表現の観点ではなく、知識・理解をねらったものだったのではないか。

(2) テーマ研究

各自テーマに基づく実践を持参し、紹介し合った。Let's readのような長い英文を読んだ后感想を書かせるといった reading → writing へ発展させる実践や自己紹介文の発表から質疑応答へ発展する writing → listening → speaking のような指導事例などが紹介された。



【ペア活動に取り組む様子】

(3) 指導助言 (石井 むつみ 指導主事)

① 授業について

- ・授業開始前から英語の歌や手拍子が教室に響き、とても雰囲気の良い授業であった。
- ・教師の指示・問いかけへの反応や学習態度から信頼関係が感じられ、意欲が高いと感じた。
- ・他者とかかわり合いながら理解を深めていく学びの姿はまさに新学習指導要領の目指すものを具現化している。
- ・なにより先生が笑顔で授業を楽しんでいる。小学校の経験のある豊嶋先生の生徒に寄り添う姿勢を中学校の教師として見習いたい。
- ・小学校との接続を意識した授業であった。生徒は小学校で体験した chants やゲームなどに触れることで安心し、中学校の学びへの期待感をもつ。このような情意面での接続が大切である。
- ・教材の準備や場面設定がよく工夫されていた。質問する必然性のある場面を与えることで意欲をもたせることができる。
- ・ゴールをどこに設定するべきであったか。指導案では評価の観点は「表現」とある。ペア活動で情報をやりとりし、その情報を書く活動は「知識・理解」の段階にとどまる。表現をねらうのであれば、知識を活用し、自分の言葉で自分の考えや思いを書いたり述べたりするところまで発展させて欲しい。

② テーマ研究について

- ・「総合的」が「バランス」を意味するのに対し、「統合的」は「関連付け」を意味する。指導に際しては4技能を総合的に指導し、統合させていくことをねらう。1時間の授業内に4技能の活動をすべて行わなければならないというのではない。年間を通してバランス良く指導することが求められている。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・小学校外国語活動を中学校英語へ結び付けていく指導の在り方を学ぶことができ、特に今後の中1生への指導の参考になった。
- ・各校から実践例を持ち寄り、4技能を総合的に身に付けさせるための授業での工夫などを情報交換することができた。また、今回は少人数グループでの話し合いを行い、全員の先生方が意見をたくさん話すことができ研究が深まった。

(2) 課題

- ・指導案にはこの単元（題材ではなく）でできるようになって欲しいことは何か、生徒にどういう姿になって欲しいのかを明確にし、単元の目標として明記していく必要がある。